日時　　：2011 年 9 月 29 日　木曜日　19:00〜22:00
場所　　：H 棟 第 2 研究室
出席　　：M2　佐長　上村　大塚
　　：M1　加藤　曽根田　田口　細金(記)
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ M2　修士設計・論文
□ M1　院ゼミ旅行

□M2　修士設計・論文

■上村　／　「軽やかな建築　-光と陰のシークエンスを用いた住める都市型美術館-」

・ 客家土楼の門を通って中庭に出る体験、アセンシア邸(カンポ・バエザ設計)にみられる気積に軽やかさを感じた。CG を使って検証をし、明るい空間、暗い空間が同時に存在することで軽やかさが生まれると考えた。
> そもそも軽やかさとは何か。lightly と airy の意味を調べる。評価軸がなければレファレンスを挙げ検証することができないはず。カンポ・バエザを軽く感じるのは白いからではないか。みんなに伝わる軽やかな建築を探してくること。

■大塚　／　「陰から考える建築設計　-エッジを曖昧にさせる陰の壁を持った現代の浴場-」

・ 旧北原家住宅とアセンシア邸の陰を CG で比較、陰を重ねたモデルを作成した。日本家屋は陰が深く、パースペクティブな奥とは別に陰にも奥が生まれていると考える。
> 陰から考える建築のよさとは。今日は何を説明しようとしているかわからない。陰を陰のまま説明してはいけない。CG を使ってレンジが違うものを検証しても意味が無い。日本家屋の陰は何が作り出すのか分析してから光を遮っていくスタディをすること。

■佐長　／　「都市の許容深度による街路特性の奥深さの記述」

・ 被写界深度を用いて人がどのように「街路、都市体験」しているのか街路景観の奥深さによって記述したい。
> 論がたたなければ論文は書けない。被写界深度などカメラのメカニズムを知り言葉を整理する。都市と田舎を比較したら田舎の方が被写界深度が深くなるのでは？カメラと都市は同じか？対象となる都市のデータを明確に取り地図でもいいのでいくつも検証すること。

□総評

・ M2M1 で組み、議論して進めること。
・ 修士は感覚だけで進めることはできない。
・ A3 の梗概を作成するには A1 分の内容が必要。
・ 2 週間後に梗概、模型をまとめること。
・ 担当　上村：加藤　大塚：曽根田　佐長：田口、細金

□M1　院ゼミ旅行

・ お金の立替えを気安くしてはならない。
・ 井戸をもっと探し、記録方法を検討する。
・ ホテルは一泊 1000 円程度で survey する際に便利な場所にすること(wifi があると良い)。
・ アーメダバードにスムーズにいけるように飛行機を調べる。
・ インド人は朝、夜が早いので日本の感覚で考えない。

日時　　：2011 年 9 月 17 日　土曜日　16:00〜21:00
場所　　：アーキプロ
出席　　：M1　曽根田　田口　細金　加藤　（記）
欠席　　：M2　佐長　上村　大塚

ゼミ内容

□ 大分県立美術館プロポーザルコンペ

□大分県立美術館プロポーザルコンペ

■大分文化班　／

・ 大分の県民性は大分の地形が大きく関係している。山や川によってまちが切り分けられている。そのため一村一品が成功するなど、県内でも土地によって様々な個性が生まれた。
> 話は良いがダイアグラムは分り易く描く必要がある。黒板に描くように太く単純に描く。地形以外にも政治的要因もあるかもしれないので調べる。
・ 豊後南画
> 常設展にも企画展が必要なので大分出身の田野村、帆足、福田、朝倉について調べる。その時代の芸大的な写実的な絵画に反発して印象派のような南画を選んだのかもしれない。人と同じのがイヤという県民性からマイナーな南画が発達したのか？他に理由があるのか調べる。
・ 県立と市立で連携できるのではないか？
> 基本的に県と県の中心となる市は仲の悪いものである。大分県の人口は約 120 万人、大分市は約 50 万人大分市の力が強いのがわかる。そういう意味では連携するのは難しいかもしれない。
・ 県立美術館は教育部分に力を入れているが、市立美術館は展示部分にのみ力を注いでいる。
> 教育部分が増えているのは社会ニーズの変化。市立の方はプログラムの構成が古い。市立はやや郊外にあるリゾート的な美術館。県立は都市的な美術館をつくるので展示空間だけに囚われない新しい美術館の姿を目指す。
・ 福岡市美術館
> 大分は地形的に熊本、福岡、特に福岡の博多はライバルのような存在である。福岡市はアジアの中心となるべく大きな美術館を作った。もし、連携を取るのならば福岡市の美術館とするのが良のではないか？
・ 竹細工の編み方の多くは大分で作られた。最近で建築に竹の編み方を利用したものではワークステーションの作品がある。竹細工の編み方を応用した屋根を杉の集成材で作っている。
> 調べただけではダメ、調べてから考察をすることが大事。編み方では六角形に編んでいるものが一番美しい。

■プログラム班　／

・ 県立美術館と市立美術館の違い。同じ作家の作品を収蔵しているが年代によって県立と市立に分かれる傾向にある。
> 県立には書簡などの収蔵もあるようなのでさらに詳しく調べておく。展示空間の提案にも繋がるかもしれない。書簡はホワイトキューブでなくても良い。何割がホワイトキューブであるか必要があるか？
> 県民ギャラリーと企画展はニュートラルな関係にあると良い。大きな企画展をやるとき県民ギャラリーと企画展をくっつけて使うなど。
> キュレーターが絵画などを買ってきて美術館を作る。集客を図るには企画展だけではなく、常設の定期的な入れ替えも必要。なので、収蔵物が増えることも考えられる。駐車場を潰して収蔵室に切れ変えられるゾーニングなども検討する。

■都市計画班　／

・ 駐車場の位置をプロットしたダイアグラムを作成。
> 駐車場をプロットしたのならば台数を添えて書かなければ意味が無い。このダイアグラムは駐車場が必要だという図には見えないのではないか？むしろ駐車場がいらないという図に見える。現在駐車場は要求の 100 台で十分と考えている。本当は 70 台でもいいと思う。車寄せは必要だが必ずしもバスの停留所が敷地内に必要ではない。敷地目の前の路肩に停めればよいので。大型は５台あればよい。搬出入は２台入れば良い。
・ 交通システムをイメージしたダイアグラムを作成。
> 地図中に描かなければ意味が無い。バス停がどのくらいの間隔であるのかなどが伝わらない。リヨンのようなコミュニティ・サイクル・システムは今回提案する必要はない。55%が自家用車で中心市街地に訪れるのなら、残りの 45%への提案を考えてみる。自動車は高齢化に従って割合が減るかもしれないし、自動車はどこにでもいけてしまうので提案しづらいだろう。大分市は地方都市なので鉄道は重要でない、バスや自転車への配慮が重要か？交通経路をもう一度調べ図示する。
・ 駐車場の計画を複数案作成。
> 敷地１と敷地２の中だけで附置義務を満たさなければならない。建築物の建つ敷地内に作る義務があるから。厳密な規定では１と２それぞれに駐車スペースを設ける必要があるが、今回はどちらか一方に担保させる事ができるかもしれない。地下に入る斜度は最低 1/6 理想は 1/12。

■ボリューム模型　／

・ 上村案
> 最後のデザインコンセプトから始めた案に見えるが、1、2 の敷地を 3 つに分け道路をもう一つ作ることは搬入計画として良いかもしれない。3 つに分けたボリュームはそれぞれひとつのキャラクターを持たせる程度の設計で良かった。あまりごちゃごちゃさせず単純につくる。
・ 佐長案
> スティーブンホールのような山型の物を作るのならば図面をそのように描く。周辺の山に同じような山を作ることに意味はないので、この配置でどのような効果が得られるのか考える。
・ 田口案
> 分棟プランで十和田クラスの小さなボリュームが固まっていくつかあるような物ならばありえる。搬入するのに空中に浮かぶ通路を通らなければならないのは苦しい。バリアフリー対策として EV を大量に設置する必要があるのが効率的とはいえない。豊田市美術館は敷地の高低差を利用して搬入から効率よく作品を運べる EV があるので参考にする。
・ 細金案
> 多層型の美術館といえば MOMA とテートモダンだが、両者ともに敷地が狭かった、果たして今回は多層にする意味があるのか。しかし、多層にすると準備中の階をスキップさせたりできるのでメリットは多く構成としては正しい。
・ 大塚案
> 2 階の大屋根の下は気持ち良い空間になっているし、展示室が見えるのも良い。北側の広場は植栽を施し観る庭とすると良い。1 階にある細長い駐車場もこれだけで 70 台ほど処理出来れば残り何台か第二敷地に設ければ良さそう。問題はファサードがのっぺりしていて通りに対して閉鎖的な提案がこの敷地にあっているのか。
・ 加藤案
> 回廊型で一筆書きのプランニングは昔の美術館の王道であった。しかし、現在はそれでは強制されているようで面白くないということで自由なプランが提唱されている。企画展と常設展はどちらか片方だけしか行かなくても良いプランを作る。
・ 曽根田案
> 大きな施設になるほど設計はざっくりとしたもので行う、そうしないとプランを解くことができない。大体 5、6 コ位のゾーニングで行うこと。美術館にクロークは原則ひとつ、どこで預けたのか分からなくなるから。そう意味では上の階から来た人と下から来た人が混ざる場所が必要である。

■アーキプロ案　／

・ 免震構造で地下を掘ることになるので、地下部分全体を使いに機械室・収蔵室・駐車スペースを設ける。地上部分は基本的に平屋とし分棟に大屋根をかける。搬入は分棟のボリュームの裏側からそのまま搬入出来る。分棟の間に大きなホール（空間）を作る。金沢 21 美では大きな空間がなかった。そこに竹林を作るのもあるかもしれない。木の天井に鉄骨の柱か。各棟ではもぎりを設けるが電車の改札のように電子化してしまうことも良いかもしれない。

■まとめ　／

・ 既存の美術館を勉強した上で美術館の常識に囚われない新しい都市型の美術館のイメージを提案する。
・ 3.11 を受けて防災拠点としても機能させる必要がある。
・ スケッチアップのシーン設定は順番が視点の順番と合うように作る。
・ 大きな建築ほどざっくり作るが人間的なものにすることが重要
・ 院生は 1.提案の考え方をシンプルに伝えるダイアグラムをたくさん作る。2.今回の話し合いを参考に全員で数案別に作る。3.駐車場の設計、特にローディングと配置を考える。
・ コンペでは共同制作なので情報の共有が最も大事。上手く Dropbox を活用すること。

日時　　：2011 年 7 月 28 日　木曜日　19:30〜21:00
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　佐長　上村　大塚
　　：M1　曽根田　加藤　田口　細金(記)
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ M2　修士テーマ発表

□修士テーマ発表

■佐長　／　「視覚領域に着目した都市透明度の記述」

・ 都市のイメージを決定する街路体験などの特徴を「見える領域」(=「視覚領域」)を用いた都市透明度(わかりやすさ、みやすさ)によって記述する。都市構成要素が空間形成にどの程度影響の実体を把握するための表現、記述手法の提示することできるのではないか。

> 都市の透明度を何かに置き換えなければならない。紀要の論文を探すだけではなくそれぞれの示し方をトライし分析し新しい切り口が必要。

■大塚　／　「陰から考える建築」

・ 光の種類、性質、3D レンダリングソフトウェアによる陰と影の分析、また中国山水画や藍染めの特徴から「影から考える」ということは繰り返すことができる起点をつくり、徐々に階調をつくっていくことではないか。

> 勉強したことはわかるがイメージでしか話しをしていない。具体的な話(敷地、面積、プログラム)がなければ発表とは言えない。

■上村　／　「Airy Architecture –空気のボリュームを用いた両義性のある建築設計-」

・ 建築空間における Airy は空気が構造体や装飾と一体化し、立体化された両義性のあるヴォリュームであると考える。目に見えない空気を含んだ volume を用い、表層と空間の区別がつかない建築空間を提案する。

> イメージでしか話しをしていない。空気を建材にすることはどういうことか言えなければならない。具体的な話(敷地、面積、プログラム)がなければ発表とは言えない。

吉松研究室　0620 修士議事録

日時　　：2011 年 6 月 20 日　月曜日　19:00〜21:00
場所　　：H 棟第 2 研究室
出席　　：M2　大塚　上村　佐長
　　：M1　曽根田　田口　細金　加藤(記)
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ M2　修士テーマ発表

□H 棟日除けプロジェクト

・ 3600×5400 の塗装飛散防止用ラッセルメッシュを半分ずつ重ねた案を提出。
>サンプルを取る。取れなかたら実物を見れる場所を聞く。
>図面、ディテールのあったスケッチを描くこと。
>窓の前にひもがこないデザインをする。
>防炎タイプの物を選ぶこと。

□総評

■大塚　／　「都市の空隙による都市透明度の記述」

・ 図学、照明用語から影の定義を探す。グラデーションを翳り、図学では陰線と呼ぶ。シェイドの中にシェイディングが含まれており、種類を区別するために階調ありを翳りと呼ぶ。
> 影と陰の定義がクリアにならない。古い論文を読んでいてもダメ、建築で定義する。

■上村　／　「Airy 感のある建築設計」

・ レファレンス探し。駿府教会、インテグラルハウス。厚みのあるルーバーがエアリーアーキテクチャーのイメージに近い。
> このままでは修士のテーマにはならないし非常に不経済。エアリーアーキテクチャーのメリットはなにか？仮想境界の提案になるのではないか？

□総評

・ レファレンスを集めるのは良いが分析をかけて整理しなおすこと。
・ 論理とは伝える事が大事。
・ 建築は形で伝えることができる。

□次回ゼミ

・ 2011 年 6 月 23 日　19:00〜21:30　H 棟第 2 研究室
・ H 棟庇プロジェクトのエスキス準備をすること

日時　　：2011 年 6 月 16 日　木曜日　19:00〜20:30
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　大塚　上村　佐長
　　：M1　加藤　田口　細金　曽根田(記)
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ M2　修士テーマ発表

□総評

■大塚　／　「陰からの建築」

・ 球形にできる陰のように、日本の陰は境界がはっきりしていない。反射光や雲などによってぼやけた陰が重なることができる。
> 陰は重ねることができるのか。陰と影はどう違うのか、いつまでたってもわけが分からない。平面と球面で比べて比較になるはずがない。西洋とか日本とかいつもいうが、西洋にだって陰はできるし球だってある。この説明ではいつまでたっても進まない。なぜ薄い陰が重なっているようにみえるのか。原理的なものの説明をするのになぜ原理的な絵を描かないのか。世の中には光と陰しかないのだから、それですべて説明を付けられるはず。

■上村　／　「Airy 感を用いた建築設計」

・ 空気が内に隠れていることに魅力を感じ、図と地の逆転現象が起きるとき Airy になると考えた。Ikimono　Architects の建築のような空気を内に含んだ状態の軽さを感じる建築を目指す。
> どうやったら図と地の逆転現象が起こるのか。とくにストライプ。現象の説明も出来ていないのでは意味が無い。詰まってそうで詰まっていないのは本当に魅力的なのか。アルミの風船や飛行機も中身はほとんど空気だが、果たして軽そうにみえるのか。4 年生の時の卒制のほうが上村の目指しているものに近いと思う。分母と分子を明確にし、それをどういじるかが勝負である。

■佐長　／　「都市の空隙による都市の透明性の記述」

・ 吉松研究室のものを中心に既往の論文を読み、郷田さんの論文が最もやりたいことに近いのではないかと思った。
> 郷田さんの論文とはどう違うのか。革新性がまったく伝わらない。歩いているときには上なんか見ないが、それでも上の空間が重要だといえるのか。地図は神の視点であり、実際に見たことなどないはずなのに、僕たちは地図がないと知らない街を歩けない。そこが面白いところ。本当にスキマに興味があるのか。透明さとはなにか。3 人の中で最も中身がない。

□総評

・ なぜ根本的なことを調べたり、考えたりしないのか。原理を知らなければ何も始まらない。
・ 勉強をしないでテーマが決まることははい。自分を疑い、しぼること。
・ 教科書には最も poor なことしか書かれていない。院生ならば専門書を読む。
・ 院生は全員が論理的に受け取れなければならない。
・ 参考例は適当に拾ってきたものではなく、自分の中で分析をかけた最上のものを挙げること。

□次回ゼミ

・ 2011 年 6 月 20 日　19:00〜21:30　H 棟第 2 研究室
・ H 棟庇プロジェクトのエスキス準備をすること

吉松研究室　0623 修士議事録

日時　　：2011 年 6 月 23 日　月曜日　19:30〜21:30
場所　　：H 棟第 2 研究室
出席　　：M2　大塚　上村　佐長
　　：M1　曽根田　田口　細金　加藤(記)
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ M1　H 棟日除けプロジェクト

□H 棟日除けプロジェクト

- 日除けを吊るための鉄パイプは必要だろうか。ロープでも十分支えられるので検討すること。
- 日除けを支えるポリタンクはプロポーションが悪いので別の物を検討する。
- ロープは結び方次第で様々な使い方ができるので登山のロープワークを参考にすること。

□次回ゼミ

- 2011 年 7 月 28 日　19:00〜21:00　山田記念室
- 修士テーマ発表の準備をすること

日時　　：2011 年 6 月 13 日　月曜日　19:00〜20:30
場所　　：第 2 研究室
出席　　：M2　大塚　上村　佐長
　　：M1　加藤　曽根田　田口　細金(記)
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ M1　H 棟日除けプロジェクト
□ M2　修士テーマ発表

□H 棟日除けプロジェクト

・ 材料の金額を計算、選定後デザインに取りかかること。
・ 一番簡単に施工、しまうことができるものを考える。
・ カビやくさることのない材料を選定すること。
・ Web を使ってメーカー、東急ハンズ、建材屋で適切な材料を調査すること。
・ 確証のないものを大丈夫ということで進めてはならない。

□総評

■上村　／　「Airy 感を用いた建築設計」

・ バウビオロギーというエコロジーの概念を調べ、Airy を用いれば意匠から実践できると考えた。またエアリーを感じる建築のレファレンスを挙げズントー、ヘルツォークの建築は Airy に感じた。建築が空気にふれる面積がふえるとエアリーになる。物質的には量は減っていないが軽くなることをしたい。
> 修士設計の目的やゴールが見えていないのでまずシナリオが欲しい。Airy がどういうものでどんな価値があってどんな意味があるのか。建築における Airy の定義が必要である。定義があればなぜ Airy なのか分かる。そこから新しいエアリーを作り出せばいい。

■佐長　／　「都市の空隙による都市の透明性の記述」

・ 及川清昭さんなどの都市研究に関する既往の論文を調べている。
> モチベーションや空隙をテーマにする目的がなければ既往の論文ばかり読んでも意味がない。自分がどんなことに興味があるのか考えること。

■大塚　／　「陰からの建築」

・ archiprix でアメリカに行った際に MIT には陰がないと思った。それは内と外がはっきりしているからであると考える。陰を作るには内と外に間に距離、中間領域が必要である。
> 当たり前の話。陰「から」考えるとはどういうことか。習字のグラデーションは陰のメカニズムと関係しているかもしれない。

□次回ゼミ

・ 2011 年 6 月 16 日　19:00〜21:30　H 棟第 2 研究室

日時　　：2011 年 6 月 9 日　木曜日　15:00〜16:50
場所　　：山田記念室
出席　　：M2　佐長　上村
　　：M1　加藤　曽根田　細金　田口(記)
欠席　　：大塚

ゼミ内容

□ M2　修士テーマ中間発表

□修士テーマ中間発表

■佐長　／　「都市の空隙における都市形態の都市形態の記述」

・ 隙間は都市の印象を変化させているのではないか。渋谷の隙間を例にあげて、図と地の反転から隙間のみを抽出し、都市デザインを有効に活用できるのではないかと考えた。
> 人は上部の隙間を認識しているのか。立体的に隙間面積を求めるメリットは何なのか。ゴールイメージがはっきりわからない。

■上村　／　「Airy 感を用いた建築設計」

・ 空気に触れる面積が増えればエアリー感を感じることができるのではないかと考えた。
> 空気を纏うことで何の役に立つのか。空気を建材と考えるのは良いが、曖昧な境界と何が違い、どんな必要性があるのか。テーマとしては面白いが、ゴールが見えない。曖昧な境界の路線にいかなければよいが。

日時　　：2011 年 6 月 6 日　月曜日　19:00〜21:00
場所　　：H 棟第 2 研究室
出席　　：M2　佐長　上村
　　：M1　曽根田　細金　田口　加藤(記)
欠席　　：M2　大塚

ゼミ内容

□ M2　修士テーマ発表
□ M1　H 棟熱環境改修計画

□修士テーマ発表

■佐長　　／　「都市の空隙による都市透明度の記述」

・ 都市の中で景色が移り変わったと感じる都市イメージの境界はどこにあるのだろうか。
・ 都市の空隙を分析することでその街らしさを示す指標を発見出来るのではないか。
＞佐長のイメージは佐長しかわからないのではないか？密度の話ならば新しさは感じられない。物理的な密度だけが都市の印象を決めているのではない。研究の目的を明確に持つこと。

■上村　　／　「Airy 感のある建築設計」

・ 『障る』ことがあると次の空間体験が引き立つ。
・ 東京カテドラル、21 世紀美術館、シアトル図書館、サンタ・マリア教会がエアリーであると感じた。
＞シアトル図書館とサンタ・マリア教会はエアリーと感じるかもしれない。アンバランスバランスによってそれ自体は動くことのない建築にも動きをだすことができる。

□総評

> 曖昧な話は無意味。
> 論理とは伝える事が大事。
> 建築は形で伝えることができる。
>

□H 棟熱環境改修計画

＞ 費用の調整が最も大事。
＞ 作業は分担し、多角的に議論すること。
＞ 腐敗しない素材を選ぶ。
＞ 施工しやすいデザインが求められている。

日時　　：2011 年 4 月 25 日　月曜日　19:00〜20:30
場所　　：デッサン室
出席　　：M2　大塚　上村　佐長
　　：M1　加藤　曽根田　細金　田口(記)
欠席　　：なし

ゼミ内容

□ M2　修士テーマ発表

□修士テーマ発表

■大塚　／　「陰から考える都市デザイン」

・ 日影規制によって影は制限されているが都市空間において陰は考慮されていないのではないか。陰をデザインすることで、陰から都市を分析し、その土地にあった都市構造を見つけサステイナブルなアーバン建築を提案できるのではないのか？
> 卒業設計と何が違うのか。陰も影も日影規制の対象である。建築は不透明だから陰は見ることができない。サスティナブルアーバン建築とは何か。なぜ建築が都市構造を保つことができるのか。

■佐長　／　「街を横断する建築-都市のイメージの記述を通して-」

・ 縮小する都市における建築のあり方として、都市のイメージの記述を行い、都市における建築のこれからを設計していきたい。
> 渋谷が渋谷である意味はあるのか。「これから」を設計するのは当たり前である。何に疑問があり何をやりたいのか。

■上村　／　「Airy 感を用いた建築（都市）再生」「生け花の作法を用いた日本的な建築（都市）再生」

・ 日本の伝統芸術である生け花から日本の精神性を配慮した建築再生を提案したい。
・ 空気という素材を用いて 既存建築（都市）がもつポテンシャルを最大限に生かしたい。
> 3 人の中では一番良い。airy でどうやって都市を再生するのか。建築を削ることは設計なのか。相当の量の建築を調べなければリノベーションは厳しい。

□総評

・ 大事なことは絞ること。1〜2 枚でいい。具体的にこれからやることが聞きたい。あと 9 ヵ月で何をどのくらいやれるか。
・ 佐長は中身はないがゴールイメージはできた。今日見た限りでは論文に近いと考える。論文を知ること。
・ 下調べをし、春の段階である程度やらなければ修士論文にならない。
・ 上村は一番マシだが、リノベーションをよく知ること。自分の目指しているもの、可能性、問題点がなければできない。